

JAグループ広島東日本大震災支援隊

第 班（福島県）支援活動～絆～情報

平成25年9月19日

情報No.2

農業協同組合 御中

農業協同組合連合会 御中

JAグループ広島東日本大震災復興・再建対策本部

（JA広島中央会 総務部）

支援活動状況について

活 動 日	平成25年9月18日（水）	天 気	晴れ
活動場所	(株)新ふくしまファーム、果樹共選場（野田、西部）		
活動概要	<p>「平成25年度東日本大震災たすけあい運動支援隊」の活動2日目は、JA新ふくしま職員の方々とのラジオ体操から始まった。</p>  <p>本日の作業場所、内容については1日目の活動内容と同じで、メンバーを入れ替えての現場支援となった。 具体的には次のとおりである。</p>		

(1) 榊新ふくしまファーム

(メンバー：佐伯中央、安芸、呉、広島中央、芸南、中央会)

新ふくしまファームでは、まず、石橋専務より、ファーム内の案内をしていただいた。

営林署の跡地であるファームは、平成21年に設立され、現在、10名体制（研修生5名含む）で運営されている。

昨年度より、JA本体の職員にも職場離脱中の3日程度、作業の手伝いに来てもらっているとのこと。

ファーム内では、ジャガイモ、大豆、そば、たらの芽等、広大な土地に様々な農作物が栽培されている。

そのうち、とりわけ山で採れるたらの芽については、「風評被害により、価格は半額以下になってしまった」とのこと。

また、それに伴いたらの芽の生産者自体も激減し、半分以下になっているという。

このように、風評被害は目に見えない部分にも大きな影響を及ぼしていることを石橋専務は強調された。

ファーム内での具体的な作業としては、

- ① 茄子の収穫
- ② 収穫した茄子の選別、袋づめ
- ③ ビニールハウス内での、きゅうりの根の撤去
- ④ 玉ねぎの種まき
- ⑤ 草けずり

といったものを分担して行った。





(2) 果樹共選場（野田、西部）

（メンバー：広島市、広島ゆたか、信連、広果連、基金協会、農協観光）

果樹共選場では、1日目とはうってかわり、農家からの梨の搬入量が増えて、非常に活気のある現場となった。

女性のパートの方とも、すっかりうちとけて、別れを惜しむ声も聞かれた。

支援活動2日目を終え、多少の筋肉痛は出始めているものの、病気や怪我もなく、支援隊メンバーは順調な活動を行っている。

活動最終日となる3日目は、野菜農家の支援と、モニタリングセンターの見学等を行う予定である。

以 上